

第2回休眠預金等活用審議会ワーキンググループの議論の概要

(1) 2019年度資金分配団体の選定結果・選定プロセスについて

- トライアンドエラーで、壮大な社会実験だと思うので、多少遅れたとか、そういうこともあるという目で見守っていくというのが、特に初期は非常に大事だと思う。
- 匿名審査に関し、審査委員の数も、簡単ではないとのことだが、増やして、様々な面から団体を判断することで、団体名を開示して審査するのがよいのではないかと思う。
- 匿名審査に関して、どんな活動をしているか、実績等も大事だと思うので、資金分配団体だからこそ団体名を開示して審査するほうが良いのではないか。
- 既存の募金や基金では、実際何に使われるか、どこでどう決まるかわからないとか、落選団体は落選理由を教えてもらえず改善点がわからないなどの声を随分聞く。本制度では、しっかりオープンに団体を決めていく、オープンにというのを見守りたい。
- 透明性について。資金分配団体と距離の近い傘下団体だけが採択されるなど、そのようなことは働いていないということ、応募団体と採択団体の情報が公表されるということなので、我々もしっかりチェックしていきたい。
- 準公金的なものにそぐわないことが、実行団体を選ぶ段階で起きないか心配。看板をかけかえて次の助成金を取りに行くなど米国で見してきたが、このようなことが今後起きる兆しが見えたことは、注意すべきポイント。資金分配団体が苦勞する可能性もあるため、しっかりチェックしていく必要性が高いと感じた。
- 出資・貸付につき、法律では出資・貸付も可能だが、今までの議論は、助成をまずは議論してきたと思う。自分の経験では、貸付の場合、回収が本当に大変で、コストも時間もかかる。出資の場合に、回収やスキームだとかどうするかを前提に議論していない。

(2) 基盤強化支援について

- プログラムオフィサーの研修に関連して、プログラムオフィサーの確保や育成と、ネットワーク化なども大事。研修の中身もよりよいものにしていていただきたい。
- 助成する側とされる側では上下関係に思ってしまうところがあるが、JANPIA と資金分配団体、資金分配団体と実行団体の間がイコールパートナーであることが大切。また、(1)の議論と関係するが、実行団体を選ぶ際、書類だけではなく、活動内容をWeb 等も活用し、現地調査や面談など丁寧に入口から出口まで対応してほしい。

(3) 事業の公正かつ適切な実施に向けて

- 助成期間が終了した後の自立化・自走について、草の根で活動している現場レベルでは難しいこともある。レベル感をどう調整して、より裾野を広げていくかは進めながら緩和していくこともある程度必要なのではないかと思う。
- 実行団体がきちんとお金を使うのは本筋の一方、ガバナンスやコンプライアンスを実行団体にどう求めるかのバランスは難しいが、配慮をしながらお願いしたい。
- 資金分配団体はしっかりしたコンプライアンスや組織であってほしいと思うが、実行団体については、これから始めたい人たちも後押しできるよう、資金分配団体から実行団体への助成金額なりにレベル差をつけて、幅広く拾い上げて頂くのがよいのではないか。
- 休眠預金事業の1つのブランディングとして、実行団体の事業として認証されたとわかるマークを添付するなど、実行団体がハードルを超えてまでチャレンジして採択を受けたことが、インセンティブになるような表現の仕方があると良いのではないか。

以上